



\*\*\*2023年度北海道知的障がい家族会連合会 研修会・定期総会<議事録>\*\*\*

【開催日時】2023年5月28日(日)13:30 【開催場所】北広島市芸術文化ホール 【司会進行】安田 由美

\*\*\*オープニング\*\*\*

【会長挨拶】北海道知的障がい家族会連合会 会長 近藤 正

会長の近藤でございます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

この3年間、新型コロナウイルスの影響により私たちの活動は停滞せざるを得ない状況でした。

そのコロナ禍も一応の収束となり私たちの暮らしもある程度落ち着きを取り戻しつつありますがロシアのウクライナ侵攻により、あらゆる物価が上昇して政治・経済・社会情勢はまだ不安定です。

私たち知的障がいを持つ者の家族としても将来に向けての不安を感じています。

障がい者支援事業を運営している法人なども人材不足や物価高騰の影響などでご苦勞の多い状況です。

特に施設利用者や家族の高齢化が問題となっていますが将来的にはさらに深刻化することを危惧しております。

道家連は従来から取り組んでいる7つの要望項目に沿って活動を行っていますが、今後も障がい者支援事業所や関連団体との連携を深めながら、しっかりとした活動を展開することが大切だと感じております。

また、今後の2年間は私ども家族会の組織や在り方について時代のニーズ・役割に合った活動に転換していく必要があると考えており、役員会でも話し合いを重ね具体的に取り組んでおります。

この後、第1部の研修会では「看取り支援の実践・第3弾」となりますが、私たちの切実な願いでもあり重要な課題でもあります。

企画いただいた北ひろしま福祉会の看取り委員会のスタッフの方々に感謝いたします。

情報を共有し、知識を深め、実践に備えたいと思います。

皆様のお力添えをいただきながら実のある活動に結び付けたいという思いをお伝えし、開会のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【来賓挨拶】道議会議員 中野渡 志穂 様

皆さんこんにちは。札幌市北区から参りました道議会議員の中野渡志穂と申します。

本日は全道からお集まりいただいた大勢の皆様方と一緒に研修を受けられることを楽しみにして参りました。

私はこの度、道議会から環境生活委員会委員長を拝命しまして、大変重要な役目ですが残念なことに保健福祉関係の質問があまりできない立場になりました。

そこで今日は、それを一緒になって取り組んでくれる保健福祉委員会の理事である中村まもる議員に同席願いました。

こちらと連携して、今後も道議会での質問等活動に取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。

そして、皆様方の願っている取り組みは、国も動かなければなかなか進みませんので、佐藤英道衆議院議員（前厚生労働省副大臣）とも連携しまして、一緒に北ひろしま福祉会を訪問させていただきました。

高齢の女性の方が、すやすやとお休みになり、過ごされている生活音や声が聞き漏れてくる穏やかな日常を目の当たりにして、本当に素敵な取り組みであることを実感しました。

皆様の希望、利用者様の希望に添える形で少しずつ進めていけるよう私も応援して参ります。

また、皆様からは大変貴重なアンケート調査の結果を拝見させていただきました。

一番多い訴えは、施設の職員の人材確保が必要だということでした。

そこで、知事や副知事に直接会う機会がありましたので直接申し上げました。

それが今回の予算に盛り込まれ、事業として進んでいくこととなりました。

具体的には、1か月以上仕事から離れている方を対象に、その応援を含めて6月から福祉施設で働く方に10万円が給付されます。

遠方からの通勤の方に最大10万円が給付されます。

受け入れる事業所にも10万円が給付されます。

このような制度を活用して、このタイミングで多くの方がチャレンジできるよう応援させていただいております。

また、電気代の高騰が大変な状況となっておりますが、これも施設に対して、入所の方を対象に1万円、通所の方に5千円など、前回と同様の給付も決まっており、そういった支援も行き届くよう進めて参ります。

最後になりますが、医療費についても応援させていただいております。

知的障がいの方で精神科に長く通院している方に医療費3割負担となっている方もおられますが、1割負担で済むような体制を呼び掛けており、医師や行政に相談いただき自己負担減につながるケースがあります。

今後もあらゆる面から皆様のサポートを続けて参ります。

---

#### 【来賓挨拶】 北海道保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課 課長 秋田 裕幸 様

道庁の障がい者保健福祉課長をしております秋田でございます。

2023年度の総会開催を心からお祝いを申し上げます。

日頃より、北海道の障がい者福祉施策の推進に多大なるご理解とご協力をいただきまして厚く御礼を申し上げます。

貴会におかれましては、障がいのある方々への福祉施策の充実と改善を図るため、そのご家族の悩みや思いを共有するとともに課題解決に向け、請願や要請に取組まれるなど、たゆまぬ努力とご活動には深く敬意を表す次第でございます。

また、長きにわたって新型コロナウイルス感染症が猛威を振るったところですが、先日感染症対策の法的位置づけが引き下げられマスクの脱着が個人の判断にゆだねられるなど、これまで行ってきました様々な感染防止対策が緩和され、このように皆様が一堂に会することができるようになるなど、以前の生活に少しずつ戻りつつあります。

これまで施設事業所を始め、皆様の感染防止対策に対するご協力に深く感謝申し上げます。

しかし、新型コロナウイルスの感染は続いておりまして、道としては警戒を続けていくこととしております。

皆様におかれましても、今後とも必要に応じた感染防止対策を続けていただきますようお願い申し上げます。

さて、道の障がい福祉施策としまして、一昨年からの3年間を計画期間とする第6期の北海道障がい福祉計画に基づいた政策を実施しております。

今期の計画では、希望する全ての障がい者が安心して地域で暮らせる社会づくりを目指し、障がいのある方を主体とした支援体制づくりを進めて、本人が希望する暮らしの実現に向けて、意欲や障がい特性に応じた地域活動が保証される社会づくりを、市町村や議会をはじめとする関係者の皆様と共同して取り組んで参りました。

本年度中に本計画の見直しを予定しております。

昨年成立しました障がい者総合支援法の改正や障がいのある方々を取り巻く状況が変化している中、道としては改めて道内の現状を把握し、各施策の一層の推進を目指すこととしておりまして、皆様方のご意見についても、ぜひ、お寄せいただきますよう、この場をお借りしましてお願い申し上げる次第でございます。

結びになりますが、今後とも道の障がい者福祉政策の推進に変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

---

【来賓挨拶】 一般社団法人 北海道知的障がい福祉協会 常務理事 事務局長 笹原 敬一郎 様

北海道知的障がい福祉協会の笹原でございます。

貴会におかれましては、日ごろから家族が連携し、知的障がいのある方やご家族の現状や思いを共有し施策の充実・改善を図る活動に取り組まれており、それぞれの地域における会員の皆様のこれまでの動きに敬意を表しますとともに障がい者支援施設をご家族の立場からご支援いただいておりますことに改めて御礼申し上げます。

昨年 12 月に道内の事業所におきまして、虐待事案と不妊処置事案が全国に報道されました。

虐待事案につきましては、当会では先ず入所されている方々が一日も早く安全・安心な暮らしを回復されますことを最優先に道内の他の会員施設に職員派遣の協力を呼びかけ、12 月末から 2 月上旬まで延べ 110 日間にわたり 9 法人、12 施設から職員派遣の応援体制を組みました。

その他、指導的立場の複数の職員を 1 月末から派遣し、1 年間現場で指導にあたることとしております。

また、今回の事案を受けて、当会では会員準則を制定し、虐待が発生した際の報告の義務化と利用者の安心・安全を優先した上で当会としての支援対応を定めました。

一方、不妊処置事案に関しては、今回顕在化したことにより、制度上、出産・子育てが想定されていないなどの問題が社会で認識され、今後どうやって不妊処置が選択されない社会にしていくのか、行政や業界を巻き込み議論すべき課題であると思いますので、当会としても研修会などで取り上げ議論を深めて参りたいと考えております。

北海道はグループホームの利用者数も入所施設の利用者数も、ともに全国第 1 位となっています。

現在、道内入所施設の利用者は施設の定員見直しやグループホームへの移行などで毎年 150 人ほど減少し、一方受け皿となるグループホームは、道内でも営利法人を中心に増加し利用者数も増加しています。

こうした状況下で、当会では特に障がい者の高齢化や障がいの重い方の今後の支援をどうしていったらいいのか、これを大きな課題と受け止めて、昨年度からグループホームや入所施設の実態調査を行っており、現行の制度や報酬が実態とかけ離れていることが分かってきました。

そこで、実態に見合う報酬改定に向けた要望なども行っていきますとともに、今年度は令和 6 年度からの第 7 期障がい福祉計画策定の年に当たりますので、将来の居住支援の方向性を見据え、入所施設やグループホームが利用者にとって安心して暮らすことのできる居住の場となるよう、当会の調査結果を道と共有するなどして連携してゆく必要があるものと考えております。

貴会におかれましては、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

---

【来賓あいさつ】 一般社団法人 北海道手をつなぐ育成会 事務局長 品田 敏 様

本日の定期総会・研修会、誠におめでとうございます。

北海道手をつなぐ育成会の品田と申します。

佐藤会長所要のため、代理で出席させていただきました。

家族会連合会の皆様と私たち育成会は、目指すところ・求めるものは重なるところがたくさんあるだろうと思っております。

その点で、これからも手を携えながら協力いただきながら、互いの活動が発展していくようにと考えております。

子どもは再来年、千歳で全道大会を開催する予定になっております。

それと併せて、同時期に育成会設立70周年になっております。

今後ともよろしく願いいたします。

本日の研修会・定期総会が盛会に終わりますよう祈念しましてご挨拶とさせていただきます。

-----  
【来賓挨拶】 後志知的障がい児・者家族会連合会 事務局 大江学園 日中支援係長 山林 弘治 様

私は大江学園の職員でございます。

後志の連合会は会長、副会長が不在の状況で新たに担っていただける方の課題を抱えておりますが、そういった意味でも道家連の皆様で支援をお伺いしたいと本日参りました。

前回の看取り研修について、その場に参加できなかったのですが、私は一職員として、北ひろしま福社会の方々のチームでのアプローチや信頼関係を築いてこられたことに心から感動いたしました。

そういうことで、今日は研修会をぜひ拝見したいとやって参りました。

本日はよろしく願いいたします。

=====  
\*\*第1部 研修会\*\*

- 研修会については、会報「ほっと40号」で特集します。

=====  
\*\*第2部 定期総会 15:50~\*\*

【総会成立報告】

- 司会より、会員数80家族会中63家族会の議決権行使書が提出されており、総会の開会並びに議決可能な定数に達していることを報告（出席者30名）

【議長選任】

- 立候補なく、執行部案により神野副会長を選出

【議長】

- 63の議決権行使書のすべてが議案へ賛成の意を表しており定足数に達しているが、総会であるので、議案それぞれについての簡単な説明を受けた後に質疑応答する。

【議事】

- 各議案は、議案書に則り、会長及び事務局が説明

第1号議案 2022年度事業報告・絆事業報告

第2号議案 2022年度一般会計・絆事業特別会計・会計監査報告

- 第1号～第2号ともに議案のとおり承認

第3号議案 2023年度事業計画

- 議案のとおり承認・議決

第4号議案 2023年度会計予算

- 絆事業特別会計は今年度から閉鎖ということでよいか(議長)
- 販売方法変更により別会計の必要性がなくなったことから一般会計に集約(事務局)
- 議案のとおり承認・議決

第5号議案 規約改正

- 文面等の補正案提示(植村幹事)
- 該当箇所は補正する(事務局)
- 一部補正することで承認・議決

第6号議案 役員改正 (1)新幹事紹介 (2)第1回役員会 (3)新役員発表

- 新幹事の紹介の後、役員が集まり、執行部案のとおり承認・議決

(会長)近藤 正	(副会長)神野 光男／小谷 裕子／安田 由美	(事務局長)畑中 陽夫
(幹事)植村 規／藤永 聖治／飯田 壮一／三浦 朋子／小山 岳／土佐 日出幸／下村 薫		
(幹事)横山一 雄／穀本 弘治郎／津脇 清一郎	(監査)大山 代美子／白幡 修治	
(顧問)道議会議員 中野渡 志穂		

- 役員が確定していない家族会があり、変更がある場合は改めて発表

#### 【その他】

- 議案なし

#### 【議長解任】

- 議長への労いと感謝を表明(司会)

#### 【閉会】

- 最期まで参加いただき、貴重な意見をいただいたことへの感謝を表明(司会)

### \*\*\*編集後記\*\*\*

ご協力いただいた皆様に感謝! 感謝!

「ほっと39号」は<2023年度定期総会の議事録>とさせていただきます。

「ほっと40号」は<研修会特集>として発行します。お楽しみに!!

北海道知的障がい家族会連合会 会報「ほっと39号」発行責任者:会長 近藤 正

